

交通グループ

交通グループの提案を始めます。

私たちのグループは、広島県の抱える交通課題について話し合いました。

このことについて、3つの提案をしたいと思います。

提案1 「違反駐車対策による渋滞の解消」について

一つ目の提案は、「違反駐車対策による渋滞の解消」についてです。

私たちは、買い物やレジャーなどに車で出かける際、よく渋滞に巻き込まれます。

工事や交通事故などによる一時的な渋滞は仕方ないと思いますが、広島県内には慢性的な渋滞箇所が、一般道路だけでも79箇所あるそうです。

渋滞による影響は個人生活だけでなく、広島都市圏だけでも年間約760億円の経済的損失が発生しているという報告もあることから、産業活動にも大きな支障が出ているし、さらに交通事故の原因にもなると思います。

渋滞の原因として、交差点等の構造的な問題もありますが、ドライバー側に責任があることの一つに、交通量が多く二車線や三車線もある広い道路なのに、第一車線に自家用車やタクシーなどが違法に駐停車して道路をふさいでしまうことがあると思います。せっかく道幅を広げても、そこがスムーズに通行できなければ意味がありません。

そこで、提案です。タクシーの乗降場など、認められている箇所以外に駐車し、通行の邪魔になっている車両についての取り締まりを強化したり、駐停車禁止の道路標識が運転者によく分かるような工夫をしてみてもはどうでしょうか。

取り締まりによってドライバーの交通ルールの意識が高まるし、標識等の工夫により駐停車禁止場所だということがわかりやすくなり、違法駐停車による渋滞が解消されると思います。

答弁（警察本部長）

まず「駐車車両の取締り」について、お答えします。

令和6年中の駐車違反の取締り件数は1万1,379件であり、年間1万件以上検挙しています。

駐車違反は運転者が車両付近にいない「放置駐車違反」と運転者が車両付近にいる「駐車違反」に分けられます。

交差点内や横断歩道、バス停付近などは、駐停車禁止場所となり、これらの場所に放置駐車違反することは特に「迷惑性の高い」、「悪質な」違反といえます。

このような車両を認めた場合、警察官や駐車監視員が「放置車両確認標章」という黄色いステッカーを車両に貼り付け、放置駐車違反として取締りをします。

さらに放置駐車違反が原因となって実際に車両が通れない場合や車庫から車が出せない状況であれば、駐車違反としてレッカー移動することもあります。

警察官のパトロールや駐車監視員の巡回の際、通行の邪魔になっている車両を認めたり、110番通報があれば、駐車違反取締りを実施しています。

次に、「駐停車禁止標識がよく分かるような工夫」について、お答えします。

道路標識や道路標示を設置して、車やバイク、自転車など車両の通行方法を制限することを「交通規制」といい、駐停車禁止も交通規制の一つとなり交通量が多く必要性が高い場所などに設置され、道路標識の色や大きさ形なども決められています。

駐停車禁止の道路標識はドライバーから見えやすいように道路の左（ひだり）端（はし）に設置しており、大きさは直径約60センチメートルで歩道に建てた白い金属製の柱や電柱に取り付けて設置しています。

他にも、道路標識に反射性のシートを使用することで、車のヘッドライトなどの光を効率的に反射させ夜間でも明るく見せる工夫もしています。

皆さんから御提案いただいたように、道路標識をドライバーから分かりやすいように工夫することは駐停車禁止場所であることの注意を促し違法駐車を減らすことに効果があります。

県警察としましては、今後も迷惑性の高い、悪質な違反を中心に取締りを引き続き強化するとともに道路標識についても道路に応じた適切な大きさや設置位置の工夫など行い見えにくくなった標識は新しくするなど、整備を推進していきます。

提案2 「高速道路等での逆走による事故防止対策」について

二つ目の提案は、「高速道路等での逆走による事故防止対策」についてです。

私は、以前、家族で出かけた時、初めての道でわかりにくく、逆走しそうになるという経験をして、逆走は身近に起こりうることだと危険性を実感しました。

最近、逆走による事故のニュースをよく目にします。国土交通省の報告によると、2024年の高速道路での逆走件数は220件で、このうち50件が事故につながり、死亡事故も4件発生しているそうです。

いつ自分が巻き込まれるかもしれないと不安な気持ちになります。

そこで、一つ目の提案です。

県内の高速道路やバイパスなどの自動車専用道路で逆走が起きやすい箇所や実際に逆走事案が発生した箇所の広報をしてはいかがでしょうか。

また、警察などでも知らない危険箇所があると思うので、地元住民や旅行者などから情報提供してもらい、追加更新するといいと思います。

あらかじめ危険な箇所を確認しておくことで、初めての道でも安心して運転できるし、逆走が多発している箇所では、「逆走車がいるかもしれない」と考えて、より慎重な運転になると思います。

また、そうした危険な箇所の道路マップがあったら、私たちも家庭や学校において、身近な大人の人たちに利用してもらうよう、積極的に発信していきます。

また、高速道路での逆走事案件数の約7割、逆走事故の約5割が、65歳以上の高齢ドライバーだそうです。

さらに、75歳以上の後期高齢者による逆走事案のうち、約半数が「逆走しているという認識がないまま逆走している」ということで、高齢ドライバー対策がとても重要になってくると思います。

そこで、二つ目の提案です。すでに70歳以上のドライバーを対象に、運転免許更新時における高齢者講習が義務づけられていますが、そうした機会に、例えば、VRドライビングシミュレーターなどを活用した逆走運転を防止する講習などをしてもらってはどうか。

VRドライビングシミュレーターなどを通して逆走運転がどれだけ自分自身や周りに危険を及ぼすものなのか認識を強めてもらうことで、逆走運転事故の減少につながれば良いと思います。

答弁（警察本部長）

まず、「高速道路等で逆走が起きやすい箇所や実際に逆走事案が発生した箇所の広報」について、お答えします。

道路を逆走する行為は重大事故につながる危険性が非常に高いので、県警察では、各種交通安全教室やホームページ等による広報啓発活動、インターチェンジやサービスエリア付近での定期的なパトカーによる交通監視を実施しているほか、道路管理者と連携して逆走が起こりやすいインターチェンジやサービスエリアの出入口において、路面に進行方向を示した矢印型のマークの標示、方面や方向を表示した看板、逆走警告センサーなどの、逆走防止の対策を行っているところです。

この度、御提案いただきました「逆走が起きやすい箇所や逆走事故が発生した箇所」に関する情報を、高速道路等の利用者に広く周知していくことは重要でありますので、今後、県警察のホームページでも広報していきたいと考えています。

次に、「高齢者講習の機会に、VRドライブシミュレーターなどを活用した逆走運転を防止する講習などをする事」について、お答えします。

高齢者講習では、普通自動車を運転することができる免許を保有している人には、実際に自動車に乗車してコースを走り、速度が守られているか、停止場所で正しく止まれるか、危険な運転はないか、などの確認を行い、その結果に基づき、安全な運転の方法について、指導・助言を行なっているところです。

さらに、プロジェクタなどの投影機材やテレビ、DVDプレーヤー等の視聴覚機材を使用し、高齢ドライバーの事故の傾向や逆走防止を含む高齢ドライバーが運転する上での留意点について講習しています。

御提案のあったVRドライブシミュレーターにつきましては、視聴覚教材の一つとして、今後その活用方法を検討していきます。

県警察としましては、逆走車両が関係する交通事故を防止するため、引き続き、道路管理者等と連携し、各種対策を強力に推進していきます。

提案3 「ローカル路線を活用した地域の活性化」について

三つ目の提案は、「ローカル路線を活用した地域の活性化」についてです。

県内には、「ローカル線」と呼ばれる鉄道として芸備線、福塩線、木次線といった路線があります。

どの路線も、昔は全線区において地域生活の足として利用されていましたが、現在は一部の路線区間を除いて乗客数は大幅に減少し、特に芸備線はこのまま利用客が減っていくと、一部区間が廃止になってしまうかもしれません。

そこで、提案です。県内外には老若男女を問わず、ローカル線を愛する鉄道ファンや、懐かしい日本の原風景の魅力に惹かれる人が数多くいると思います。

そうした人たちに向けて、例えば、列車内から撮影した沿線風景の動画配信や、無人駅の駅舎を利用した宿泊体験など、沿線住民以外の人たちにもローカル線を利用してもらえるようなアイデアを広く募集し、実施してはどうでしょうか。

ローカル線の利用が増えることで、地域の活性化につながれば良いと思います。

答弁（地域政策局長）

「ローカル路線を活用した地域の活性化」についてお答えします。

芸備線や福塩線をはじめとしたJRのローカル線は、広島市や福山市などの大きな都市と、県の北部に位置する三次市、庄原市などの自然豊かで、おいしい食材の宝庫である中山間地域を結んでおり、県民の日常生活や経済活動を支えるための移動手段であるだけでなく、地域の観光や交流の手段としても重要な役割を果たしているものと考えています。

こうした中、ローカル線の沿線市町が一体となって設置した利用促進対策協議会では、利用促進に向けた様々な取組を行っており、

その中で、ホームページなどを通じて利用者や事業者へのアイデア募集なども実施しているところです。

募集したアイデアを基にした取組の具体的な事例としては、福山市の山野峡や世羅町、三次市のワイナリーと連携したワイン列車の運行や、ヒバゴンや里山の風景など庄原市の魅力を車体にデザインした芸備線ラッピング列車の運行などを行っており、多くの方々に、利用していただいています。

県としては、近年増加している外国人観光客を始め、県内外の多くの方々にローカル線を利用していただくため、引き続き、利用者のニーズを踏まえた旅行商品の開発やローカル線の魅力を発信するためのアイデアを広く募集していくことを協議会に働き

掛けていきます。

今後とも、ローカル線を利用して地域を訪れる人を増やし、地域全体の活性化につなげていくためには、様々な方々の意見を踏まえた取組が必要と考えていますので、皆さんからの御提案を是非お願いします。